



■2014年10月のマンスリーNEWS 第123号

■コラム

■10月のアークル



皆様いかがお過ごしでしょうか？外の空気はめっきり秋めいた感じです。

私は1年の中でこの季節が一番好きな季節です。また「食欲の秋」とはよく言ったもので、やたらお腹が空くのは健康の証拠でしょうか。まもなく寒い冬を迎える前に、秋を堪能しましょう。

さて、私達飲料業界は一番の稼ぎ時、7.8.9月を終りました。結果は皆さんがご想像通り、惨憺たる結果で終わっています。夏場最盛期、最後の月の9月も残暑は残らず涼しいと感じるほどでした。今年の猛暑に近い残暑に比べると比較になりません。いかに私達の景気が天気によって左右されるか如実に表された、今年の夏場最盛期でした。

9月の涼しい気候の中、弊社ではいち早くホットへの切り替えをスタートさせました。ちなみに8月の末からダイドーの1室ホット（5～6品）はスタートしています。缶コーヒーのニーズの高いダイドー機は他社より先行させてホット切り替えを行う方針でやっています。

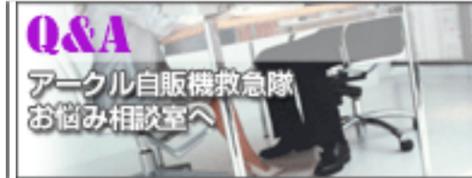
またサントリーやJ Tは9月末から2室ホット（10品～12品）からスタートしていきます。ちなみにダイドー機で1室ホットが先行されますが、その後2室ホットでサントリーやJ Tがスタートするので10月時点では結果ダイドー機のホットアイテムが他社より少なくなってしまうという現象がおきます。これではまずいということで、9月末からはダイドー機についてはさらにホットアイテムを増やすために3室（15～18品）切り替えをかぶせていく格好になります。

実は今年はこの切り替え以外にやらなければならないことがあります。それは今年に入って始めているスタンダードオペレーション（以後S O）の導入です。このS Oの導入、実は簡単ではないのです。今秋の秋の切り替えがこのS Oのスタートと決めてきたので忙しさは例年よりも増しているかもしれません。

ちなみにS Oとは自販機オペレーションの効率化を図るための施策で、その中の一つに商品を自販機に詰めるコラム設定の標準化というものがあります。つまり基本的にカテゴリー別に商品を投入する場所が決まるのです。今までそんな標準もなく、バラバラに詰めていたものを整理するために商品の入れ替えが必要なのです。

そんな作業をしながらの切り替えなので、作業もスムーズに進んでいきません。またホットへの切り替えというのは、ホットとコールド両方にコーヒー類が入るので、夏商品をカットしていかなければなりません。昨今賞味期限の問題などうるさくなり、商品管理の難しさも増した中での切り替え作業は、より考えいかなければならない状況になっています。

このS Oにはこの商品管理をうまく行う施策も入っています。自販機の商品は売れるものばかりで



はありません。また気温によって売れ筋も微妙に変化します。そう考えると自販機のセット商品は上手に回して行くようにしないと、不良在庫の山になってしまいます。場合によっては空コラムを作って新商品を入れる準備をしなければならない時もあります。

空コラムというのはコンビニで言えば、商品棚に商品が入っていない状態ということです。しかしこれを安易に行うと売上のとれない自販機になってしまいます。またあとから商品を補充するのに大変な労力がかかってしまいます。



一概に自販機と言っても、「**単純に商品を詰めておけばいい**」というのではなく、売れ行き、季節などいろいろな要因を見ながらコントロールできるノウハウが必要になります。

さて今秋は私達自販機業界はある意味で分水嶺になります。それは・・・

ここ何ヶ月の当マンスリーでも書いていますが、自販機の缶コーヒーの売上が激減するかもしれないのです。コンビニのカウンターコーヒーの影響です。今秋はコンビニに各社が揃ってカウンターコーヒーを準備し終わって迎える最初の秋となります。夏場は、ペット系の飲料が売れるのでそれほどコーヒーへの影響は無いと思われませんが、秋冬商戦の中心はやはりコーヒーとなります。そのコーヒーで100円でさらに淹れたてとなると、缶コーヒーへの影響は必至です。

個人的な意見ですが、最大の影響を受けるのは190mlの一番売れ筋の缶コーヒーではないでしょうか。増してや消費税で価格も上がった状況の中、どうみても缶コーヒーは不利な状況に置かれています。

事実、実際にコンビニ内ではカウンターコーヒーが缶コーヒーの売上を食っているようで、コンビニ内の缶コーヒーの売上はだいぶ下がっているようです。

消費税導入後、弊社の自販機のパーマシシ（1台あたりの売上）は確実に下がっています。もちろん天候も悪いのですが、消費税の影響そしてこのコンビニコーヒーの影響は少なからず、あると考えています。

また市場の自販機は完全に飽和で、日本全国の飲料自販機の台数はここ10年増えていません。このようにすさまじい逆風吹き荒れる自販機業界ですが、その中でいかに生き残っていくのか考えどころの自販機オペレーター業界なのです。

また、最近巷で騒がれている人材不足問題もこの業界も例ではありません。首都圏の自販機オペレーターで人が足りているというような業者はほとんどいないようです。それはこの業界の利益構造にも多少問題があるかもしれません。

このように数多くのネガティブ要因がある中、私達はそれらを避けていこうということではなく、全てを現実と捉え、またチャンスと捉えポジティブに進んでいこうと考えています。

自販機は今後いかにお客様の冷蔵庫代わりになれるかと考えるべきです。いつでもどこでも、飲みたいとき飲める利便性を追求するのです。コンビニよりも小さい存在なのでより小回りが利く優れものと考えてべきです。

弊社では現在6名の新人さんがルート独り立ちの準備をしています。「そんなに人がいて余剰なんじゃない？」と思われるかもしれませんが、そうではないのです。私達の業界は今インフラに投資する時期ではなく、人に投資をする時期なのです。

また今後は厳しい市場の中更なる、新規開拓を推し進めていく予定です。具体的には「VISION2016」というものがあります。誰もが厳しいと思っている中にチャンスは潜んでいるのかもしれません。

基本的に自販機オペレーションを磨き、お客様に喜んでもらう。そして飲料メーカーの期待に答えられるオペレーターになる。これが私達の存在する大きな意義なのです。

ビジネスは良いときばかりではありません。いつ何時、嵐に巻き込まれるかわかりません。そのためにも日頃からしっかりと取り組む必要があります。また経営面でも利益をしっかりと確保し、税金を払い内部留保できる体制を作る。

会社経営にマジックはないのかもしれませんが。

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5		JT売れ筋ベスト5	
1位	新ダイドーブレンドコーヒー	1位	南アルプス天然水500P	1位	165スペシャル微糖
2位	新ブレンド微糖	2位	ボス贅沢微糖	2位	爽快ビタミン500缶
3位	細缶Mコーヒー	3位	ボスレインボーマウンテン	3位	マルチミネラルウォーター
4位	Nデミタスコーヒー	4位	伊右衛門435P	4位	ルックリミーカフェアイス
5位	富士山天然水500P	5位	グリーンダカラ500P	5位	大地が磨いた綺麗な水550P

■コラム

■3年ぶりのフィリピンは？

新しいプロジェクトが始まるかも・・・



フィリピン・パンダンへ子供図書館のサポートをしてから約3年。その後その図書館はどうなっているのか？

今回はそれを見に、3年ぶりのフィリピンへ・・・

はたして石橋さんは元気かな？本は増えているのかな？あの時の子供達はどのようにしているのかな？なんて・・・いろいろな思いがこみ上げてくる中の訪問です。（2012年1月号マンスリー参照）

パンダンはマニラから車を走らせ、約3時間。最初マニラ周辺の渋滞に悩まされますが、マニラを離れて高速に乗れば、スイスイです。

今回も子供達のために、中古パソコンやノート、鉛筆などをごっそり買い込み訪問。

パガサ子供図書館のあるパンダンの住宅街は前と一切変わっていません。狭い道幅、お世辞にも裕福とは言えない人々。

しかしここはまだ良いほうです。そのことがまざまざと知らされるのはこの後のことになります。



図書館は相変わらず子供達で溢れています。

驚きは本やパソコンが増えている。前回訪問時、壁だったところは全て本棚に変わり本が一杯。

日本から寄付が多いのか、やはり日本の絵本などが多い気がします。日本の絵本や漫画は絵だけ見るような感じで、本来であれば英語の本がいいそうです。

しかし確実に本は増えていて、間違いなく現地の子供達には役立っています。現地の子供は基本的に本は持っていません。

石橋さんに質問です。

Q. どんな子供でも出入りは自由ですか？

A. 基本的には簡単なルールさえ守ってくれば、誰でも出入り自由です。

Q. これだけ多くの子供達が利用しているのを、その親たちはどう思っているのでしょうか？

A. 8割の親は喜んでいますが。しかし2割の親は止めてほしいと思っているようです。なぜなら働き手(子供)が働かなくなるから。



このパガサ図書館でさらに素晴らしいことが行われていました。これには驚きです。なんと、この数年前、図書館に入り浸っていた20歳の青年がボランティアで寺子屋をしていたのです。

この子は病気でまともに学校を受けつけてくれなかった子だそうです。そんな子がボランティアで子供達に英語や数学を教えていたのです。

さらにすごいのは奨学金制度を石橋さんが独自で行っていることです。

石橋さんをサポートする日本人が数名います。その人達が石橋さんを通じて奨学金制度を立ち上げていたのです。奨学金と言っても、大学の授業料を援助するスタイルもあれば、お弁当を持たない小学生の昼食代まで幅広い、奨学金制度です。

とても興味深いのはこの奨学金制度を全て把握しているのが石橋さんのフィリピン人の奥さんです。この奥さんは子供達の家庭環境(収入)や学力を把握しているので、その子達にマッチした奨学金をコントロールしているそうです。

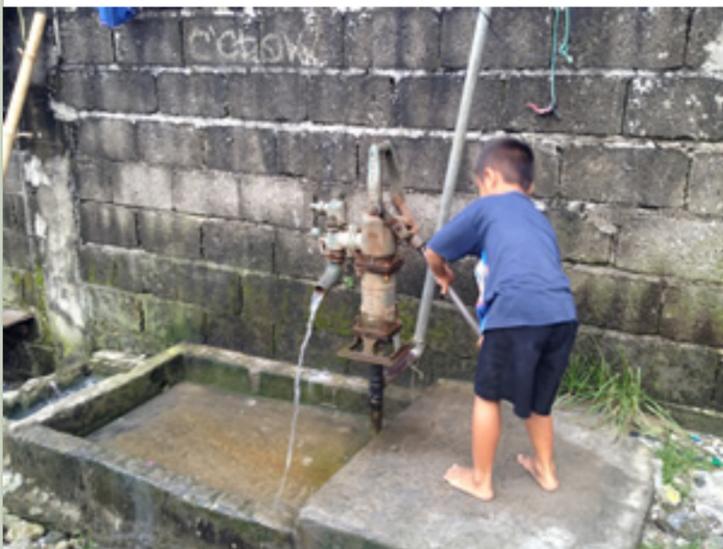
また援助している側も、自分のお金がどの子にどのように使われているかを明確してあり、援助のしがいがあります。わずかなお金で、勉強をしたくても出来ない子を助けることができるのは、援助のしがいがあります。

それから・・・新しいプロジェクトも進んでいます。

それは井戸掘りプロジェクトとソーラーパネルプロジェクトです。

最近図書館の近所に井戸を掘ったそうです。井戸掘り援助はNGOなどたくさんの団体が行っているそうなのですが、全てその団体の人件費があるために1本掘るのに高額な金額を言われるそうです。ちなみにこのあたりでは日本円で30万くらい。しかし石橋さんの場合は完全ボランティアなので、コストのみ。一切他の経費は乗せないので、1本5万くらいで出来るそうです。

井戸プロジェクトは効果があります。なぜなら水汲みは子供の仕事で、井戸まで遠いとそれで学校に行けなくなってしまうケースもあるからです。



「そうだ！これから次の井戸掘り予定地を見に行こうか」ということになり、その場所に向かいます。実はその場所がフィリピンの底辺の人達の生活を目の当たりすることも知らずに・・・

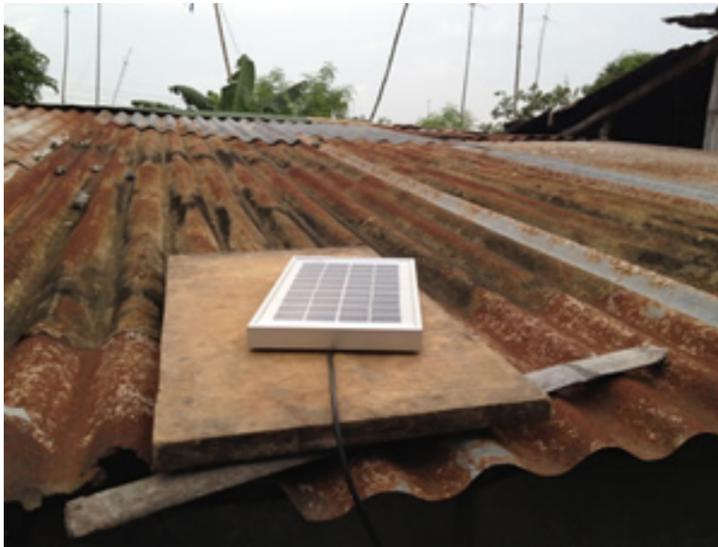
タガログ語で「スクウォッタ」という言葉があります。簡単に言えば「不法占拠」。土地オーナー(政府や地主)の許可なくその場所に小屋を建ててしまい住み着いてしまうのです。

井戸を掘る場所はまさにそんな場所。実際にその場所に行くと目を覆いたくなる様な現実があります。日本のホームレスのほうが確実に良い生活をしているのではないのでしょうか。

もう一つのプロジェクト、ソーラーパネルプロジェクトもそのスクウォッタの近くの家に設置されました。その周辺は電気がきていません。(電気についてはかなり普及していますが、場所によっては電

気がない所もあるという表現がいいかもしれません。しかし電気代は高額のようです)

設置した家は石橋さんから奨学金も貰って、大学に通う女の子の家です。やはり家で勉強がしたいということでソーラーでLED電灯を設置しています。ソーラーと言っても大掛かりなものでなく、ホームセンターで売っている簡単なソーラーキットでコストは5千円位のものです。今まで夜は真っ暗な中で生活していたので、この変わりようは住んでいる人にとっては革命のようなものだと思います。ちなみに夜はソーラーパネルを盗まれないように、家の中にしまうそうです。



それにしてもフィリピンはどこへ行っても子供が多い。フィリピンの人口は1億人以上で平均年齢は24歳だそうです。つまり若い働き手がいくらでもいるわけで、若い人は仕事にありつけないのは、それもあるようです。日本のように若い働き手がいなくて困っているのではなく、その逆でいすぎて困っているということなのです。

また今回特に実感したのは富む者と富まない者の差の激しさです。国が全て「袖の下（裏金）」で動いているような国なので、富まない者は永遠に富まない者なのです。またスペインやアメリカに統治され、自立を促された教育を受けなかったため、地主と小作人の関係はひどいもののようにです。この体制は山岳のゲリラの存在理由となっています。



そして経済で言えば、製造業など国の根幹となる産業がないことがこの国を貧しくしている感じも受けました。大型ショッピングセンターはマニラのあちこちにあります。これだけ貧しい国なのになぜこれほど大きなショッピングセンターが存在するのか、不思議です。この消費を支えているのが海外で稼いだマネーです。

しかし海外で稼いだお金をショッピングで消費してしまえばそれでおしまいです。やはりさらにお金がお金を生む様な経済システムが必要です。

ショッピングセンターの店舗の実情もひどいようで、海外で稼いだ人がFC加盟で店舗をショッピングセンターにオープンするのですが、ほとんど儲からず商売を止めるそうです。しかしおなじようにやりたい人が次から次へと現れるので儲かるのはショッピングセンター運営側ということになります。

このようにいろいろ考えるといかに教育が大切がわかります。しかし明日の米がない貧しい人達にとっては、長い先のことよりも目先の食事のほうが大切だということもわかります。

フィリピンの人達がニュースで伝えられる「アジアの経済発展」で貧困から脱出できるということはありませんと確信しました。

今回で3年間の石橋さんの援助が形になっていることを実際に見ることが出来ました。わずかなお金でこれだけ人を窮地から救えるのなら、何らかの援助基金を創設して役に立てればと思いました。なぜならこの援助は中抜きされていないからです。ちなみに昨年 Leyte の援助物資などは現地にほとんど着いていないそうです。全て中間でどこかへ消えているそうです。また少しするのその物資がスーパー並んでいるというような笑えない話まであるそうです。

今後も、フィリピンプロジェクトは続くでしょう。



うちの近所にお世辞にもきれいとは言えない韓国食堂があります。

いつも前を通っているけど、入ったことはありません。

(気になっているけど入ったことのない食堂ではありませんか?)

ということで・・・

勇気を出して(?) 行ってみることにしてみました。

店内の雰囲気は微妙～・・・

メニューを見ると、名物は豚カルビとあります。

メニューを見ると、名物は豚カルビとあります。

店の特製ダレに漬け込んで・・・

メニューを見て、料理についてオモニに質問
お薦めは

まず豚カルビ、特製ダレは自家製だよ。

ユッケジャンは辛いの？

うちのコチジャンは薄めていないから辛いよ。
日本の韓国料理店はコチジャンを薄めて使っているよ。

その他に評判のいいのは

チヂミかな。うちのチヂミを食べたら他のは食べれないとお客さんは言うの。

それでいただいたのは

特製豚カルビ、これがすごいボリューム。そして安い。(1,000円)

それから豚バラ、これも650円。超安い。

そして、高評判というチヂミは海鮮チヂミをオーダー。

それからユッケジャンスープ(個人的に好きです)と石焼ビビンバ。





そしてその感想は・・・

特製豚カルビはタレに漬けてあるので、やや味は濃い目。ご飯は欲しくなる味です。
チヂミは確かに旨い。厚めのチヂミで具たくさんが特徴。
ユッケジャンは辛い。汗をかきかき完食です。

それにしても、本格的な韓国食堂はこんな身近にあるとは・・・
完全にお気に入りのお店の一つになりました。



店名 海雲台 (ヘウンダイ)
住所 小田原市本町1-9-29
TEL 0465-24-5337
営業時間 17:00~22:30

■コラム

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

ただいまブログは6名が更新中です。

- ・小田原営業所所長日記
- ・チーフの日記
- ・販促課マネージャーの日記
- ・海老名の所長ブログ
- ・開発道
- ・海老名アシスタントチーフ日記



ダイドー1室HOT

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願いします。

■2014年度のマンスリーNEWS

→	2014.09	アークル	マンスリーNEWS
→	2014.08	アークル	マンスリーNEWS
→	2014.07	アークル	マンスリーNEWS
→	2014.06	アークル	マンスリーNEWS
→	2014.05	アークル	マンスリーNEWS
→	2014.04	アークル	マンスリーNEWS
→	2014.03	アークル	マンスリーNEWS
→	2014.02	アークル	マンスリーNEWS
→	2014.01	アークル	マンスリーNEWS

■マンスリーNEWSアーカイブ

→	最新	マンスリーNEWSトップページ
→	2013年度	2013年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2012年度	2012年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2011年度	2011年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2010年度	2010年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2009年度	2009年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2008年度	2008年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2007年度	2007年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2006年度	2006年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2005年度	2005年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	2004年度	2004年のマンスリーNEWSアーカイブ
→	番外編	マンスリーレポート番外編

